

# 年 度 評 価 シ ー ト

課名 産業政策課

施設の名称 静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター（CCC）	指定管理者名 株式会社ピーエーシー
<b>1 履行状況</b>	
業務仕様書及び事業計画書に従って適切に履行されている。 (1) クリエーター支援業務、センター利用許可業務、企画運營業務、施設管理業務について、事業計画等に従って適切に遂行された。 (2) 「まちの賑わいの創出」のためダンス、演劇、音楽など様々なパフォーミングアーツ事業を開催。「七間町ハプニング3」では七間町・人宿町界隈に複数の会場を設定し、1週間という開催期間の中で、市民との共演、クリエイターとの合作、近隣店舗との連携、伝統文化との融合、学校との協働など複合的に事業を展開した。2,500人超の参加があり「まちは劇場」を推進した。 (3) 文化・クリエイティブ産業振興事業として展示会20件、セミナーを12件、イベント5件、マッチング1件を実施した。 サントリーBOSS、TYOTA子ども店長などの広告クリエイティブで知られる「福里真一」氏のセミナーや、新たな価値を持つ伝統工芸品をプロデュースしているミラノのブランドHOD代表「椎名香織」氏、著名なデザインプロデューサー「下川一哉」氏、伝統工芸職人「中川周士」氏をゲストスピーカーに迎えた豪華なトークショーを始め、次世代を担うクリエイターのための公募企画展（全6回）、垣根を超えた静岡未来づくり会議「フューチャーセッション2017」（全4回）などを実施した。 また、CCC移転3周年、静活創立100周年記念事業として映画のまち七間町を意識し、公開当時話題となり、現在でも名作と評される映画ポスターのほか、過去の映画館の写真を展示した「七間町を彩った懐かしの映画ポスター」展や、県内のイラストレーターなどクリエイター15名による静岡のご当地かるた「しずおかかるた」の開発、制作、展示、かるた大会など幅広い事業展開を行った。 〈その他の主な事業〉 ■ 「Blend new project」 ■ 「クリエイティブビジネス相談」 ■ 遠山正道氏セミナー ■ 「STYLISH×SHIZUOKA展」 ■ 「JAGDA静岡グラパ展」 ■ 街カルinCCC ■ 「静岡シルクプロローグ『羽衣』」 ■ 「しずおかクリエイターズHUB」 など	
<b>2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）</b>	
利用者からの意見・要望に対しては、意見・要望を積極的に取り入れる体制が整っており、適切な対応がとられている。 <b>【具体的な意見・要望と対応状況例】</b> 〈事業企画について〉 意見等：アートが身近に感じるよう、子育て世代向けの事業を開催してほしい。 対応：2019年度は、ファミリーでの体験の機会やクリエイティブの大衆化を図る事業として3Dトリックアートの展覧会などを行う。	

### 3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

施設利用者に対しては、各セミナー終了後や、展示会ごとにアンケート調査を行い、「とてもそう思う」、「思う」という評価が86%であり、総じて施設利用者の満足度は高い。

CCCでのアンケートでは、年代・性別にかかわらず、幅広い層が来館していることや、初めてCCCを利用した人の割合が46%となっていることなどから、施設の継続した事業展開により、CCCの認知度が向上していると評価できる。

「クリエイティブの引き出しが増えた」84%、「今後の学業・仕事に役立つ」86%、「デザインへの興味が増した」93%が「とてもそう思う」「思う」と回答しており、クリエイティブのスキルアップや啓蒙啓発が進んでいると評価できる。

### 4 指定管理者の経理状況の評価

指定管理業務についての収支状況は、おおむね予算どおりに執行されており、良好である。

### 5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

〈成果〉

- ・ 事業者とクリエイターとのマッチングを図ることができ（H30：15件）、百貨店（伊勢丹）と連携し、販路を意識した事業展開ができた。
- ・ 七間町ハプニングなどのパフォーマンスアーツの分野における新たな取組が展開でき、参加者からは引き続き高評価をいただいている。
- ・ クリエーターハブ登録人数（H31.3月時点：63人）や支援制度により、クリエイターのまち中の集積（H30年度：3人）が進んだ。
- ・ 地域と連携した活動を実施することができた。（静岡シルク、七間町ハプニング、街カル、しずおかかるた など）

〈課題〉

- ・ CCCの認知度をさらに高めることが必要
- ・ 展示会やセミナーなどの施設利用と合わせ、特化した事業（まちは劇場）も必要
- ・ 文化クリエイティブ関連企業とHUB登録クリエイターとの接点を増やすことや、広く市民がクリエイティブに親しみやすい事業を進めることで、CCCでの交流人口を増やすことが必要

※事務事故が発生したとき及びモニタリングにおいて改善の指導があったときは、必ず改善状況を記載すること。